



同窓会会報発行再開に当たって

同窓会会長 久保村 昭衛

同窓会の皆様には益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

創立60有余年の永い歴史と伝統をもった東京都立中野工業高等学校の卒業生が960名となり今更ながら驚くと共に、日本全国に網の目の如くに羽ばたいて下さっておられる同窓生方のご活躍を思いうれしさばかりでなく頭の下がる思いでいっぱいです。

役目上多くの実業高校を訪問いたしますので数多くの生徒とお話をしたり、実習の作品を拝見させて頂いております。魚やフルーツの缶詰、ジャム、ジュースそれにパンやクッキー等プロ顔負けの作

品の数々で驚くばかりです。設計製図科の作品でしたか、パンフレット、カタログ等其の学校の地域の宣伝が十分に取入れられていて私は印刷屋さんで作られたかと驚いた事も有りました。当校でも十年程前工芸部でソーラーカーを作った事があり学校中が湧きました。実習に実習を重ね失敗に絶望を重ねての大作で「匠」として立派な体験をされた事と思います。「ソーラーカーレース鈴鹿98」「ソーラーカーレース鈴鹿2000」「2001秋田大会」「2002秋田大会」「2004ワールド・ソーラー大瀆」に出場致しました。当校の缶詰類、お菓子、ほか種々と頂戴いたしました。

「匠」という字を見かけるようになりましたが辞書を引けば職人とか芸術、技巧等など出ておりますが要は「秀でる人」を指すのだと思います。本学の標榜する「教育目的」を実現すべくお互いに切磋琢磨して学業を修め「職も匠に」「又「生涯の生活も匠に」と願うものであります。

歴史は古いということばかりに価値があるのでありません、たくさんの生徒が東京都立中野工業高等学校で学び「匠」の基礎をじっくり身につけて新しいもの作りと共に二十一世紀の実社会を跳んで欲しいものです。

頑張っても頑張っても芽も出ない失敗、絶望に

襲われる事も永い人生にはあるものです。そんな時にこそ母校の東京都立中野工業高等学校を思い古巣の訪問を試みるのもよし、又学友を訪ねての昔話もまた心洗われて勉強になるものです。匠を持つご自分を信じお力を発揮され益々のご発展をお祈り申し上げます。

又山梨県高根町に設立いたしました清里寮につきましてその後の経過を申し上げます。昭和37年7月に東京都立中野工業高等学校「清里寮」竣工し開寮しました、昭和56年頃より財政的理由により閉寮状態となりなり、昭和62年に寮運営を学校より同窓会が引き継ぎ寮維持に努めてまいりました、平成10年以降寮利用が皆無となり財政的に維持運営が難しくなり、やむなく平成16年3月に廃寮とし建物は解体廃棄し土地を山梨県に返納いたしました。これまで永きに亘り多くの方々のご支援とご協力を賜りました事に厚くお礼申し上げます。

同窓会最近の動きであります、昨年から同窓会会員の親睦を図るため特に新入会員に対し歓迎懇談会を開催しております。又同窓会会員名簿の正確を期する為追跡調査をして会員とのコミュニケーションを取るべく努力しております。

クラス会の幹事さんへ

同窓会の輪を拡げる為に、クラス会を開催した際には、クラス会情報と出席者名簿等を同窓会事務局までご連絡くだされば幸いです。

同窓会に寄せて

校長 萩原 和夫

4月から着任しました萩原和夫と申します。石坂前校長と同様によりしくお願ひいたします。前任校は大田区にある六郷工科高等学校で、5年間勤務しました。

本校は総合技術科という入学時に一括募集を行い、2学年から生徒の希望や適性に応じて3つの類型に分かれて工業科の専門教育を学ぶ、特色ある都立工業高校です。類型は機械系・食品工業系・工業化学系があり、男子が60%、女子が40%の比率です。

本校同窓会は毎年6月に総会を行い、生徒の部活動などに支援をいただいています。とりわけ、昨年行われた創立60周年記念事業には多大な援助をいただき、改めて感謝申し上げます。運営面では、1期生で会長の久保村様をはじめ役員の方々がたびたび本校にお越しいただき同窓会の維持発展に寄与しています。今回の会報発行も久方ぶりと聞いています。会員相互の情報の機会として今後の継続発行を期待します。

4月以降の学校状況を簡単に報告します。4月9日に第61回入学式を挙行し、176名が入学しました。是非大部分の生徒が卒業していただきたいと願っています。4月下旬に麻疹（はしか）が発症して連休明けまで、臨時休校しました。3年生は6月初旬に北海道修学旅行を実施しました。7月からは就職・進学が本格化していきます。

中工60周年を終えて

PTA・OB会会長 塩澤 洋子

同窓会の皆様に平素よりご協力賜り有難うございます。OB会の親睦会等にも会長さんをはじめ役員の方々にもご参加頂き大きな励みにもつながっております。大変感謝しております。

先に執り行われました60周年の記念行事も一年ほど前から同窓会会長の指導のもと何度も会合を重ね多くの意見を出し合いながらここまでこぎつける事となりました。

式典は学校で祝賀会は厚生年金会館でと、大勢の方々のご参加で無事終わり関係者の関心の高さに驚いた次第です。其中でもやはり一番の功労者は同窓会の皆様的一致団結にほかなりません、学校に対する思い入れなければ実現も間々ならぬ事でした。

昨今の学校を取り巻く環境や個人情報等厳しい現実でございます。同窓会のこの暖かな思いやりで中工が益々発展されます事を願っております。

OB会も同窓会の応援を頂き今日まで来ております。今後もお互いに切磋琢磨し協力しあって発展して行きますようよろしくご指導下さいませ。

希望に燃えて

昭和34年機械科卒業
弁護士・弁理士 池田 和司

一、私は、昭和31年3月練馬区立開進第2中学校を卒業し、同年4月に母校の

都立中野工業高等学校に入学した。

都立中野工業高等学校に進学した動機は、母校で機械科の先生をしていて、最近まで同窓会のために色々協力をして下さった中川栄吉先生（平成18年2月他界）が、かつて開進第2中学校において職業科の先生をしていて、私とその教え子の一人であった縁によるものである。私は、子供の頃から手先が比較的器用で、中学時代に中川先生に指導を受けた際に「スパナ」の設計図などでは、中川先生から最高点を頂いたりして可愛がっていた。

二、さて、その都立中野工業高校であるが、入学早々に中野駅西側にあつた桃園町の実習工場に行った際、その実習室のお粗末さに驚き、また旋盤は天井からのベルト操作による旧式のものであつたりして、全く失望をした。

時は、丁度、中野桃園校舎から今の野方校舎に移転をしていた最中のことで、その内、野方校舎においても妙正寺川の向うに新しい実習工場が完成し、新式の自動旋盤も設置されたりして、ようやく近代的な工業学校に姿を変えつつあつた。

当時の先生方は、終戦後のこともあつて、あちらこちらからの寄せ集めといった感じで、一人一人が大変個性のある先生が多かつた。後藤馨先生の後を受けた担任の宮城盛昌先生がホームルームの際に、「僕は通学の電車の中で揺れるとき、その揺れに身をまかせている」等と話をしたことに対し、「先生、皆がその気持ちでは、将棋倒しとなつて危険ではないか」と食つて掛かると、宮城先生は怒り

もせず「なるほど」といった調子でニコニコ顔で聞き容れてくれ、活発で且つ和やかな雰囲気ホームルームであつた。

また数学を担当していた大村先生は、野球部の部長をしていたが、この先生は絶対に笑わない人で、いつもブスとして嫌な先生だったが、ある時私の中学時代の同級生で都立西高に進学した宮川君が私達と全く同じ数学の教科書を使っていた事を知り、大村先生の目の確かさが分り以来私自身大いに自信を持つと共に大村先生を尊敬するようになった。

現在の野方のキャンパスには、多分あちこちに樹木が茂っていると思うが、これは当時の池谷金次郎校長が中野桃園町から、野方の新天地に移転して来て、ここに理想の学校を創りたいという一念で、毎年全国生徒が庭に出て「植樹祭」と称して、校庭に樹木を植えてきた結果であり、その当時は、先生も生徒も一体となつて新しい学校創りに汗をかいたものである。

三、母校は、工業高校であつたから、就職する事が卒業後の目標であり、当時ハイレベノレにあつたと見え、一人の学生で日立・ホンダ・東芝といった超一流の会社に合格していた。そのような環境の中にあつて、私はなぜか多分前述の西高の友人らの影響を受けて大学進学を志すようになった。

担任の先生に相談しても、今までそのような学生と出会つたことがなく、学校自体ほとんど進学の為の情報を持ち合わせていなかった。仕方がなく私は独学の形で一人で受験勉強に取り組みことに

なったが、そのような中で、クラスメイ
トの秋山進君（彼は、東証一部上場のナ
カヨ通信機の社長として現役で頑張っ
ている）には、私の本心を打ち明け、卒
業製作の「万力」の製作などには、多く
の部分を手伝って頂き、大いに助かった
思い出があり、この時の縁で今も親友中
の親友としてお付き合いをさせて頂いて
いる。

野方への移転

10MB 梅田 清永

入学式は桃園校舎の古めかしい講堂で
行われました。式が終わった後、野方校
舎へ移動し校庭に整列して教室に入りま
した。当時の校庭は田んぼを埋め立てた
名残があり、南側の水溜りに黄色いアヤ
メが咲いていた事を記憶しています。1
年の実習は桃園校舎でした。A・Bの2
組で月によりA組は午前中、B組は午後
のように変則的な授業もありました。午
前の実習が終わると午後は野方校舎に移
動して一般科目の授業を受けたもので
す。桃園校舎で午後の実習があった時は
校舎が現JR中野駅に近いいため、早く家
に帰れる事が出来、楽しみの一つでした。
桃園から野方への移転の際に幸か不幸
か私達は経験しませんでした。先輩
達が机や椅子をリヤカーに積んだり手で
持ったりして桃園から野方へ運んでいた
ことを憶えています。

野方へ完全に移転が終わる授業が順調
に進んでいましたが昭和33年秋、台風に
より妙正寺川が氾濫して一階にある機械
が冠水して大きな被害が出ました。私達

は卒業に向けて実習課題である「卓上万
力」を製作中でしたがこれが原因で工作
機械が使用出来ず、水が引いた後も暫く
は機械の錆落としや機械の整備が実習と
なってしまうました。その間にも実習担
当の先生方や関係機関の御尽力により機
械工場は原状に復旧しました。お陰で卒
業までに課題製品を完成することが出来
ました。

9MA 猪山 啓四郎

クラス会の開催経緯

我々昭和33年卒業の9MAは、卒業時
42名でしたが現在30名の所在が判ってい
ます。

卒業してから30年近くはクラス会など
皆で集まる機会は殆どなく、たまに有志
が集まる程度でした。ところがある時級
友の一人が病気で亡くなり、これからだ
んだん寂しくなるので定期的にクラス会
を開こうということになりました。

第1回目の開催は昭和52年で今回で6
回目になりますが、現在では会の名称を
昭和33年卒業にちなみ「ミミの会」と名
づけて2・3年に一度開催してま

クラス会の様子

今回第6回目のクラス会は、伊香保温
泉で開催しますが参加者は先生を含め14
名でした。

参加者の年齢はおおむね67・68歳です
が、アルバイト程度も含めおよそ半分の
仲間がまだ現役で活躍しています。

開催当日はゆっくり温泉につかり、宴
会では昔話に花が咲き、カラオケで多い
に盛り上がりました。また翌日は、竹下

夢二記念館見学、水沢観音参拝などのあ
と、次回の開催を約束して昼食後名残惜
しみながら散会いたしました。
最後に、恩師の眞壁先生は来年末寿
をお迎えですが今でもたいそうお元気
で、6回のクラス会すべてに参加して
戴いており、幹事一同先生がお元気なう
ちはなるべく多くの開催を計画したいと
思っています。

平成19年度同窓会定時総会開催される

平成19年6月3日(日)母校音楽室に於
いて開催されました。会長以下168名(委
任状出席148名出席20名)が出席しました。
開会宣言後、会長の挨拶で、母校創立
60周年記念行事に対してお礼のお言葉があ
り、続いて次の70周年に向けて力強く会
の活動を進めて行きたいと述べられまし
た。

規定により会長を議長に選出し、議事
が進められた。

- 一、平成18年度事業報告の件
 - 二、平成18年度収支決算報告の件
 - 三、平成19年度事業計画の件
 - 四、平成19年度収支予算案の件
- 各議案の詳細は別紙を参照して下さい。

平成18年度の事業計画中最大の、イベ
ントであった、母校創立60周年記念行事
は滞りなく、無事終わらせる事が出来た。

会員より総会の「出席者数を増やす方
策を」との提案があり、役員会等で具体
策を検討して行く事として閉会した。

「講演会」の実施に向けて、同窓生皆様の参加をお待ちしています。

同窓会では、母校60周年を契機として
同窓生による講演会を計画しています。

同窓生各位のご参加を心からお待ちし
ております。

母校は中野駅前から野方の地に移り、
50年余りになりました。

近年の少子化の影響で、工業高校も
閉鎖の運命をたどっている学校がありま
す。

第一期生以下1万人に近い卒業生が巣
立っていきました。

同窓生が、経験したことはご本人の
みでなく、母校にとって貴重な財産であ
る。

この経験を、在校生に伝えていくこと
が、母校への支援になります。

同窓生同志でも、仲間の経験は大きな
励みに、そして参考になります。

同窓生各位殿、この財産を是非ご提供
ください。

講演会は、毎年一度行ってゆきます。
ご講演ならびにご参加をお願いしま
す。

開催時期は、毎年11月3日文化の日の
文化祭の日を計画しています。

(明年平成20年から)

他の行事との併催でなく、単独で行え
るように発展していくことを願うもので
す。

よしやってやる、と云って下さる同窓
生の方々は、同窓会事務局に一報くださ
い。

母校創立60周年記念行事が挙行される

平成18年11月25日(土)、母校東京都立中野工業高等学校がめでたく創立60周年を迎えました。

記念式典は母校体育館にて、600人もの大勢の来賓・学校関係者の皆様をお迎えして、厳粛に挙行することが出来ました。式典終了後記念講演を「中野工業を卒業して」と題して、第8期機械科卒業の三浦政勝様の講演がありました。この講演は在校生にとっては有意義で大変為になったと思います。祝賀会は午後2時より新宿厚生年金会館にて開催され、120人の来賓の皆様をお迎えして盛大かつ和やかな祝宴でありました。これにより記念行事も無事終了する事が出来ことに皆様方に厚く御礼申し上げます。

また記念行事の一環として記念誌を発行する事になり、同窓会も「卒業生の回想記」を30名の方々が投稿致しました、立派な記念誌を発行できた事に深く感謝申し上げます。



都立中野工業高校 60周年記念によせて

昭和35年工化卒 大津 幹太郎

「人生で、成功者」となるには？」もし昭和35年の中野工業高校卒業時に、この質問をされたら迷わず、一流会社就職して車や家を買って豊かな家庭を築くこと。だと言っていたことでしょう。

当時の一般的社会状況は貧しく、金銭的な豊かさこそが成功や幸福を意味し、豊かになるには手取り早く工業高校を経て、いっぱいの中堅技術者となることが近道と考えておりました。

その後、日本経済は発展を続け、多くの人達が「自分は中流階級に属している」と感じ、また物質的には豊かになりました。今、数多くの同級生に会うとこのような「成功者」だけでなく、高度成長時代に日本をGDP第2位に押し上げた貢献者であり、良き技術者」に、そして今となっては「良き社会人・家庭人」になっておりました。

勿論皆様自身の努力や精進の賜物ですが、良き時代、良き先輩に恵まれたこともあるでしょう。

ラッキーだったのは、担任の本間孝明先生に遭遇したことでしょう。真面目な教育者、そして工業高校から大学進学した化学者として解り易い教え方が今でも印象に残っており、卒業した後もし引き続き私達を導いてくれました。

さて、都立中野工業高校が2006年に60周年の還暦を、そして私達も還暦を6年前に迎えました。これは新たな目標へ向かって検討する良い機会でしょう。

公立の工業高校は、その存在の是非が議論され既に廃校になった都立工業高校もあります。他

方、一部の経営者を除いて私達定年退職者は、その役割を終え会社者人間から次なる目標へ転進すべき時期になりました。

孫の面倒、甚会所に行くだけでなく「仕事人間」を卒業して地域社会デビューや、ボランティア活動を通じて社会へ恩返し等を始めることをお勧めします。

又、母校の同窓会のお手伝いを通じて後輩や同輩、そして公立の工業高校を支援するのは如何でしょうか？我々の存在意義や経験、そして工業立国へ立派に役立った実績を訴えていくべきです。これは、自分自身にも言い聞かせておられます。

世のため、人のために尽くした人には 閻魔大王が奉仕活動一回につき極楽浄土の一日パスポート券を発給してくれます。さあ、これからの長い人生、次なる「成功者」をめざして一緒に考えてみませんか。

中工創立六十周年おめでとうございます

三浦 政勝

私は本校第八期機械科卒業生（昭和三十一年）の三浦政勝です。私は本校卒業後就職先が企業倒産によって二度に亘り変わった経験を致しまして、最終的に現在の日産自動車(株)が定年退職時の企業でした。その間昭和五十二年（一九七七年）に労働組合の推薦によって東京都議会議員選挙に立候補し、以来連続六期二十四年間政治の場で活動し、平成十三年（二〇〇一年）政治から引退し現在に至っております。（中略）

さて、私が本日お話しするテーマは『中工を卒業する意味をどう考えるか』であります。

その第一は本校のインターネットによる紹介HPのタイトル『時空への創造』についてであります。非常に難題なこの言葉の意味は即ち『あなた自身の生涯を意味する』ものでもあり、常に何かを創造する事への飽くなき探究心を持ち続けていく人間としての素地を本校における学習の中から感じ取っていくことを目標にしているものと思えます。『創造し、物作りを実践する』、これは人間の生きていく環境を創造する最も基本とするべきものであります。本校はこのスタートに立つ場であると考えます。（中略）

第二は本校に於ける高校時代を過ごす事への大切さであります。我々の高校生活から築かれる『仲間』の絆と質の強さは普通高校とは比較にならないほど強く、しかも長期に持続するものであり、それは『物作りへの職業意識（プロフェッショナル）』に目覚め、その共通意識からくるものである。従って高校時代の仲間は『生涯の友となり得る貴重な仲間』とも読み替える事も出来、その場が教室であれ、部活であれ、私生活であれ同じであります。第三に実社会に出てからの心構えの一つとして『工業高校の卒業』としての高い誇りを持ち続けて欲しいという事でもあります。現在の企業における人事管理の基本は『能力・実力に基づく成果主義』であります。（中略）

第四に現在の社会に直面する課題として頭に入れておいて欲しい事があります。それは所謂社会的に云われる『ニート&フリーター』には絶対にならないで欲しい。あれは自らが社会的な舞台から逃避する、又はさせられる社会であり、自身の人生をつまづかせざる大きな要因ともなる可能性が

あり、従って自ら好んでこの道を選択すべきものではないと考えるからであります。（中略）

終りに今後の皆さんに期待することとしてお話しします。その第一は、『多聞の友を持って』という事であります。この言葉はその昔中国の哲学者が高弟に伝えた言葉として今に伝わっている言葉です。『自分を理解してくれる友からの直言』を大切にしようという事でもあります。第二は二十年後の自分に向けたメッセージを、『今作って欲しい』事です。二十年後は三十八歳、正しく社会を支える年代です。その時の自分に向けて『あなたは今何をしていますか等々』そして『今中工はどんな学校になっていますか』現在の自分が持つ目標とその将来に向けて『自分自身に宛てたメッセージ』を作り、自身への励ましとつめを創造して欲しいも考えます。

それは中工が目指す『四次元の世界に繋がる「時空の創造」に直結するもの』になることと期待するからであります。

「卒業生の歩み」 出展のお願い

母校の文化祭は、毎年11月3日文化の日に行われております。後輩たちが、その年に合ったテーマに沿って一生懸命準備しています。我々OBとしても、側面からの応援をしようと、平成16年の文化祭から「卒業生の歩み」と題して、卒業後の足跡を書いたものを掲示しております。自分たちの先輩は、どんな道歩んでいるのか、興味深いものがあると思います。後輩たちを勇気づけるために、是非ご出展ください。別紙添付資料を参照していただければと思います。毎年10月15日までに事務局宛お送り下さい。後輩たちのため是非お願いします。

中野工高の沿革の概要

本校は、共に大正2年に設立された「高井戸実業補修学校」及び「桃井実業補修学校」の両校に由来する。その後、両校共数次にわたる組織変更・校名変更等を重ね、それぞれ「東京都立農産化学工業学校」及び「東京都杉並工業学校」と改称された。

昭和21年4月1日	「東京都立農産化学工業学校」と「東京都立杉並工業学校」を統合し、「東京都立農産工業学校」(所在地：中野区桃園町15)を創立 中川西栄作 初代校長就任	昭和38年7月18日	山梨県北巨摩郡高根町字榎山字念場ヶ原3545番地(通称清里)のハヶ岳山ろく清里寮完成、現地にて竣工式を挙行
昭和30年8月1日	新校舎へ移転	昭和60年11月4日	創立40周年記念式典挙行
昭和35年9月8日	体育館兼講堂竣工	平成5年4月1日	機械科、食品工業科、工業化学科を廃止し、総合技術科を設置
昭和35年10月8日	創立15周年、校舎、講堂完成記念式典挙行	平成7年6月3日	創立50周年記念式典挙行
		平成17年11月21日	校舎耐震工事竣工

総合技術科コース案内

総合技術科は、単一学科ですがその中には大きく分けて三つの類型(機械・食品工業・工業化学)があり、さらに各類型が2つずつのコースに分かれています。

機械類型 機械類型では、一般教養を高めるとともに、将来技術者として必要な機械工業に関する基礎的な技術の習得を目標とした学習指導を行っています。 ①機械工業の基礎知識と技術に重点を置き、実習を通して技術の習得、勤労に対する適切な態度・習慣を養います。 ②機械工業関係の科目の学習を通して機械技術の基本的知識を習得します。 ③機械工業における制御技術及び電気・電子技術の基礎を学習し、工業技術の進歩に対応できる能力を養います。	
マシンデザインコース (設計製図系) 旋盤などの工作機械を使用して金属加工を行い、機械製作の基本を学びます。また、最新のコンピュータを使用したNC工作機械やCAD(自動設計製図機)などを使用して高度の技術も学びます。	メカトロニクスコース (電子機械系) 私達が日常使用しているほとんどの物がコンピュータ化されてきています。このコースでは機械(メカニズム)と電子(エレクトロニクス)の基礎を学びながら、自動制御に関する高度な技術を学びます。
食品工業類型 食品工業類型では、食品工業界で将来技術者として活躍する為に必要な基礎的な知識・技能を習得するとともに、バイオ技術に関する実践的・創造的な能力の育成を目標とした学習指導を行っています。 ①食品工業に必要な食品の性状についての化学的・物理的な知識を学ぶとともに、分析と試験及び検査などに必要な技能を学習します。 ②食品工業に必要な微生物の基礎的な知識やバイオ技術に関する技能及び食品製造理論と機械や装置の原理・構造などの知識や操作法を学習します。 ③食品工業に必要な工業基礎や工業数理並びに情報技術・品質管理などの知識・技能の習得を目指し学習します。	
フードテクノロジーコース (食品工業生産系) 食品の加工・保存などについて学習するとともに、実際に缶詰などを作る生産実習なども行います。また、福祉に重点を置いた社会に対応するため機能性食品や栄養補助食品についても学びます。	バイオテクノロジーコース (食品生産工業系) 発酵食品や食べ物の色や香りは生物によって作られています。それらを酵素などを用いながら人の手で作り、有効利用し、私たちの食生活を豊かにする技術が食品系のバイオテクノロジーです。工業高校でははじめて設置されたコースです。
工業化学類型 工業化学類型では、技術革新の著しい近代化学工業を担うに充分な実践的能力と研究的素養のある、常識豊かな技術者を育成する事を目標とした学習指導を行っています。 ①化学工業分野の基本的な知識と技術に重点を置いて学習を進め、工業技術の進歩に即応できる能力を養う学習を行います。 ②化学工業の特質とその社会的・経済的意義を理解した化学技術者としての素養を高める学習を行います。 ③実験実習を重視し、作業を通して各種能力(創造、開発、計画、操作、運転、管理等)と勤労に対する適切な態度・習慣を養う為の学習を行います。	
ライフエコロジーコース (生活環境化学系) 世界的に環境問題がクローズアップされています。生存に欠かせない水・空気などを調べ、安全に生活できるより良い生活環境を作る技術者を養成します。	カレッジコース (基礎工学系) 理工系の大学や短大・専門学校に進学したい生徒を対象に学習指導を行います。さらに、工業関係の基礎的な知識を学習し、さらに情報・バイオ新素材の基礎についても学習します。

クラブ・委員会活動

【生徒会・常任委員会】		
体育祭委員会	中工祭委員会	合唱祭委員会
図書委員会	編集委員会	風紀委員会
保健委員会	美化委員会	放送委員会
【文化系クラブ】		
写真部	音楽部	華道部
吹奏楽部	食品加工部	囲碁将棋部
映画研究部	機械工作部	歴史研究部
マンガ研究部		
【体育系クラブ】		
バトミントン部	バレーボール部	野球部
テニス部	卓球部	陸上部
剣道部	柔道部	ダンス部
水泳部	空手道部	バスケットボール部
ソフトボール部	サッカー部	釣り部

卒業後の進路

本校では卒業後の進路決定に関して進路指導部を中心に様々な援助活動を行っています。自己の性格や適正を認識するための各種検査、就職・進学のための資料や情報の提供、個別相談や面接指導等生徒の立場に立った総合的な進路指導に心がけています。

就職 状況 (平成17・18年度)	【機械類型】 エレベータテクノス東京(株)、(株)ワン・ケイ・ジー、東へ化工(株)、(株)シンク・クリエイト、(株)ブリヂストン、(株)華屋与兵衛、ジェイコム(株)、(株)関電工 等 【食品工業類型】 (株)紀伊国屋フードセンター、第一屋製パン(株)、(株)DNP包装、(株)カードイナル、葵企画(株)、(株)日興薬品、(株)伊勢丹ダイニング、アイエックス・ナレッジ(株)、(株)コロナ東日本、(株)魚耕、(株)栄太郎総本舗、(株)ビッグカメラ 等 【工業化学類型】 第一ビルメンテナンス、サッポロライオン(株)、(株)テスコ、高松商事、(株)フジデン、(株)日本化薬東京、(株)ぼぼす 等
進学 状況 (平成17・18年度)	【機械類型】 工学院大学、日本文化大学、ものづくり大学、明星大学、東京福祉保育専門学校、駿河台電子情報専門学校、東京工科専門学校、読売東京理工専門学校 等 【食品工業類型】 秋草学園短期大学、東京聖栄大学、エコー辻東京、織田調理師専門学校、東京観光専門学校、東京福祉保育専門学校、東京エアトラベル専門学校 等 【工業化学類型】 神奈川工科大学、工学院大学、道都大学、東京工科専門学校、読売自動車大学校、東京テクニカルカレッジ、目白デザイン専門学校、東放学園、日本美容専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本外国語専門学校 等

桃園での教育

3F 酒井 義光

昭和21年中野工高の前身都立農産工業学校食品工業科に入学、戦中戦後の食糧難時代を経験した両親は、ひもじい辛さを味あわせたくない、食品科に入学させれば食うに困らないであろうと考えたようだ。国電中野駅西方線路すぐ南側に学校があった、住所は中野区桃園町15と憶えている。旧制中学の最後に入学しその翌年新制になって昭和24年まで私達の学年は下級生のいない状態が3年間続いた。数学竹中先生、国語横溝・真壁先生、社会後藤先生等懐かしく思い出す、昭和29年の夏休み真田先生が私達を引率して下さり5泊6日で奥秩父を縦走した、三峰口より雲取山・雁坂峠・国師が岳・昇仙峡へ抜けた。

桃園時代の高校

3F 海野 清

我々中野工業高校三期生の食品化学科卒業です。前進の農産工業時代からですから、六年間在籍した事になります。高校二年になって初めて後輩が入学してきました。担任は水野先生、実習の眞田先生、国語の眞壁先生、英語の花澤先生など思い出せます。

当時私は世田谷の大原町で焼け出されたため、下北沢の借家に住んでおりました。父が病気になるまで

いましたので学校どころではなく、アルバイトに一生懸命にならざるを得なくなりました。だから学校に行ってもさつま芋の昼食が済むと午後の四時限目は一眠りの時間でした。先生も理解して下さいまして一度も怒られることはありませんでした。五時限目の授業が終ると再び急いで帰ってアルバイトをする毎日でした。今思うと良く卒業が出来たなと思います。生活に追われていましたがよき時代だったかも知れません。厚澤先生に薦められたのでアルバイト先で借金をして東京農大に行く事になりました。厚澤先生は中野工高の教員になって欲しかったの知れませんが、その様な印象に思われました。

桃園校舎の思い出

5M 澤谷 周治

私が入学した昭和26年、中工は中野駅西側の高台に有り駅からゆるい坂道を約1分の処だった。校舎・実習工場は木造で旋盤はベルト式で最高50分の1ミリ、自動旋盤の有る都立工専に何回も通った覚えがある。校庭は狭く対角線で50メートルがっぱいでした。高2の時今のサンプラザ際の警視庁のグラウンドを借り秋季大運動会が有り、特にマラソンコースは学校より青梅街道に出て鍋横より中野車庫の際を北進し早稲田通りへ出て中野通りへ戻る全長約4キロ、私は2位に入りノートを頂き

ました、当時は車も少なく良い思い出となっております。

1学年機械科A組は鶴飼先生(英語)、B組は小林先生(機械)、2学年機械科は横溝先生(国語)、3学年機械科(5M)は山藤先生(機械)で戦艦大和の設計技師です。当時は卒業したら即就職するのが大半でしたが、5パーセント位は進学希望者が居ても進学の方に進み古文・微積分・世界史等を学びました。我がクラス42名の仲間は百パーセント就職し進学組は早大・日大・芝浦工大等それぞれが無事旅立ちました。日航に入社したY君は今ある会社の常務取締役としてまだ働いています、大企業では部長となり中小自営では経営者として皆さん元気に過ごしています。

クラス会は卒業後1年目よりほぼ毎年行っております。高校時代の友は生涯の友でありお互い利害関係なく、特にいろいろな社会情勢が裏表なく正確な情報が得られます。我々も3歳となり健康面で危ない友も多く最近のくらす会は10人集れば良いとしています。何はともあれ桃園時代は我々の人生の出発点となっております。

桃園校舎から野方校舎へ

7F 平田 洋子

私達7期生は昭和28年4月に桃園校舎に入学しました。現在のJR中

野駅西方の線路の南側の徒歩で約5分の所に校舎がありました。古びた木造の校舎(明治の終わりか大正の初めの造りと思われる)狭い校庭(現野方校舎のテニスコートを一回り広くした程度と思う)でした。実習工場(機械・食品)は木造で設備は当時としては普通と思われれます。運動会は1学年の時は現中野区役所隣の警察学校のグラウンドを借用して行われ、2学年の時は桃園の狭い校庭で行われ、3学年の時は学校移転で行われなかったのではと思います。

昭和30年8月に桃園校舎から野方校舎に移転となりました。学校敷地内には妙正寺川が流れていて校舎は木造二階建て一棟であったので校庭は物すごく広く感じました。

夏休みに校庭整備で元は畑であった為草ぼうぼうの所を暑い中草むしり作業をしたのを懐かしく思います。9月より野方校舎での授業となりましたが、実習工場は移転出来ていないので桃園校舎での授業でした。昭和31年3月に野方校舎初の荣誉ある卒業生と成りました。

桃園校舎・野方校舎の両方に在学を経験したのは、7・8・9期生です、9期生は桃園校舎最後の入学生と成りました。私達7期生は桃園で2年5ヶ月、野方で7ヶ月の在学でした。



クラス会情報

3F 酒井 義光

今年6月24日(日)クラス会があった、参加者12名で人数は少なかったがこの会合が一番新しいクラス会である。クラス名簿を見ると死亡1名、住所空欄6名、住所は記載されているものの今まで1回もクラス会に出席しない者13名、1回でも出席した者20名。卒業直後からクラス会開催を意欲的に縁の下で力を発揮してくれた林正一君、クラス会初の箱根一泊旅行実施の中心だった原島昌一君の両名が病を得てしまい最近のクラス会に出席されないのが淋しく残念である。クラス会に出席する顔ぶれは全員お酒が好きであるが、お酒は飲めないけれど出てよかったですと思える様な趣向を凝らして参加者を増やしたいものである。

「我が同期M5会の面々」

5M 澤谷 周治

昭和29年3月我ら42名は都立中野工業高等学校機械工作課程を卒業しそれぞれ社会に旅立った。当時は戦後の復興に向け企業もようやく活気づき始めたころだと思えます。M5会の当時の主な就職先です、東電・自衛隊・東芝・三越・日本無線・日産自動車・富士重工・神通通信・京王電鉄・神鋼・カルピス・都交通局・沖電気・東京電気化学・日航・日本ラジエーター他自営業9名進学者3名と100パーセントが無事収まりました。

以後昭和30年より毎年のようにクラ

ス会を開き、特に山藤忠太郎先生が喜寿の時には横浜より往復タクシーで送迎し新宿でクラス会を開催し20数名が参加したのが遠い昔に想えます。40代の社会人として一番忙しい時代で先生ご夫妻も非常に喜んで別れを惜しまれました。その翌年先生は78歳で亡くなりました。現在も出来る限りM5会を年に一度は開催したいと思っていますが、会員の過半数が体調を崩す人が多くなり最近では7、8名位しか参加しません。

工業学校を出て一番感じた事は皆それぞれ日本有数の企業に勤め、若い時からいろいろの情報が得られた事です。人生に対する価値観は人それぞれですが技術屋は人間性にも素朴で悪人はいません、皆一生懸命に生きてきた友達です。

「我が7MAの仲間達」

7MA 田中 正二

私達は昭和28年4月に中野駅近くの桃園校舎に入学いたしました、昭和30年9月に桃園より野方の方に校舎が移転し、我ら7MAの40名は昭和31年3月に野方校舎初の卒業生となりました。現在住所判明者20名・海外居住者1名・物故者4名です。卒業後クラス会は平成13年までに7回位開かれましたが、平成13年の時に今後は毎年開こうという事になり12月に定例化し現在程度です。高校時代の友達は親密で生涯の友達です、今後一層親交を深めて行きたいと思っております。

クラス会の状況

10MB 梅田 清永

私達10MBは44名が卒業し平成19年6月現在、音信があるメンバーは24名います。清里寮があった頃は年に一回程度一泊で清里寮を利用し、今は故人となられた中川先生や岡先生を交えクラスメンバー近況や将来について語り合ったものでした。

寮が廃止となつてからは春夏秋冬の時期や場所に拘わらず、その都度名幹事である高野紀八郎君が企画・立案してくれ年に一度の会食を催しています。

昨年は箱根の彫刻の森を見学し熱海温泉に一泊しました。参加者はクラスメンバー十数名と岡先生を交え酒を酌み交わし美味しい料理を食しながら、ともに近況を語り、楽しい時を過しました。翌日は熱海梅林へ行き観梅と洒落込んだものです。

今年6月19日(土)横浜ワールドポーターズのレストランで横浜港を横に見ながら、洒落たフランス料理で昼食会を催しました。料理とワインとのマッチングが良く小生はワインを飲み過ぎてしまいました。

今後この様な楽しいクラス会を継続して行きたいと思えます。

事務局よりのお願い

同窓会会員の皆様方には益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

平成18年11月25日(土)に母校創立60周年記念行事の式典は母校体育館で、

祝賀会は新宿厚生年金会館で厳粛にかつ盛大に行われました。学校を中心に、PTA、PTA・OB、同窓会が一体になり進めてまいりました。皆様方のご支援ご協力にあらためて御礼申し上げます。

同窓会活動の必要の資金確保のため、昭和62年6月に同窓会会則を改定し同窓会「年会費200円」の納入をお願いすることになりました。毎年多くの方々より賛同を戴いておりますがまだまだ少数です。約960名の同窓生の通信費、母校の部活動等の支援に資金が必要です。諸般の事情をご賢察の上、同窓会会員各位におかれましては、各種お知らせの際同封の振込み票にて「年会費200円」を納入して下さいる様お願い申し上げます。

各種同窓会よりのお知らせは全会員に出すのが原則ですが名簿の住所等が不確実(住所判明率が50%程度)なので全員に出すことが出来ません、会員数約960名で通信費も960×80=76800円になり約38万円が無駄な出費となるので、住所が確実の方に出すことにしています。現在追跡調査をしております、同期・クラスに関係無く同窓生の所在が分かる方は事務局までご一報下さる様お願い致します。

問合せ先事務局

350 狭山市狭山台2-25-12

田中 正二

TAL 〇四二九五八一四六九八

FAX 〇四二九五八一九七二九

E-mail: NQDD06772@nifty.com

平成 18 年度事業報告

概要

活動目標であった

1. 同窓会に関する意識調査（アンケート調査）。
調査する意味が無いので中止する。
2. 同窓会会報の発行。
発行する事が出来なかった。平成 19 年度には発行を再開したい。
3. 同窓会会員名簿の編纂、全期にわたり完了。
最近以外の名簿は古い名簿で編纂しているので住所等が不確実のため
追跡調査をすることが必要なので推進して行きたい。
4. 行事（催し事）。
 - (1) 平成 18 年 4 月 7 日 母校入学式 3 名出席 於：母校体育館
 - (2) 4 月 9 日 役員会 8 名出席 於：母校音楽室
新会員歓迎会、総会開催、60 周年行事等の検討。
 - (3) 5 月 13 日 新会員歓迎会、役員会、13 名出席 於：母校音楽室
新会員歓迎懇談会後同窓会総会資料発送業務（新会員 5 名役員 8 名）
 - (4) 6 月 4 日 18 年度総会 15 名出席 於：母校音楽室
 - (5) 8 月 6 日 役員会 8 名出席 於：野方地域センター
60 周年行事、会報の発行、意識調査等の検討。
 - (6) 11 月 3 日 中工祭（卒業生の歩み出展） 於：母校
 - (7) 11 月 25 日 母校創立 60 周年式典 45 名出席 於：母校体育館
祝賀会 46 名出席於：新宿厚生年金会館
 - (8) 平成 19 年 2 月 17 日 新年会 20 名出席 於：グランドパレスホテル
 - (9) 3 月 8 日 母校卒業式 4 名出席 於：母校体育館

平成 18 年度収支決算書

収入の部

入会金	108000.	3000 × 36 名
年会費	236000.	2000 × 118 名
六十周年行事会費	659000.	
	(290000.)	10000 × 29 名
	(144000.)	8000 × 18 名
	(225000.)	3000 × 75 名
寄附金	279000.	
寄附金（祝儀）	110000.	祝賀会、新年会
預金利子	109.	
前期繰越金	414402.	
合 計	1806511.	
支出の部		
行事費	677790.	60 周年行事、新年会
会議費	32636.	総会、歓迎会、役員会
通信費	275700.	
印刷費	66822.	
事務用品費	32034.	
卒業記念品代	55000.	
部活動助成費	50000.	
慶弔費	10000.	竹井様 3 回忌線香料
振込み手数料	25955.	
小 計	1225937.	
次期繰越金	580574.	内訳 三菱東京UFJ 177233.
合 計	1806511.	郵便貯金 391938. 現金 11403.

平成 19 年 3 月 31 日 会計 中村 真一 会計 島田 勝利

収支決算について関係書類を監査した結果、適正に処理されている事を認めます。

平成 19 年 3 月 31 日 会計監査 西村 満郎 会計監査 江野下 健二

平成 19 年度事業計画

基本計画

前年度の不実行の事業計画を推進したい。

事業計画

1. 同窓会会員の親睦を一層深めるためおおいにアピールをする。
2. 同窓会会報の発行。
3. 行事（催し事）。
 - (1) 母校入学式（4 月 9 日）
 - (2) 新会員歓迎会（4 月 22 日）
 - (3) 19 年度定時総会（6 月 3 日）
 - (4) 母校体育祭（9 月下旬）
 - (5) 母校文化祭（中工祭）（11 月 3 日）卒業生の歩み出展
 - (6) 新春交歓会（新年会）（2 月上旬）
 - (7) 母校卒業式（3 月上旬）
 - (8) 役員会の随時開催（2 ヶ月に 1 回程度）

平成 19 年度収支予算案

収入の部

年会費	130000.
寄附金	120000.
入会金	150000.
前期繰越金	580574.
合 計	980574.

支出の部

行事費	150000.	中工祭、新年会、その他
会議費	50000.	総会、役員会、その他
通信費	150000.	各種案内、その他
印刷費	30000.	各種案内状印刷
事務用品費	20000.	
卒業記念品代	60000.	
部活動助成費	50000.	
交際費	20000.	
慶弔費	20000.	
振込み手数料	20000.	
予備費	410574.	
合 計	980574.	